

 **がん強いセールスパーソンになる**

3回のがんを経験した50代・乳がん患者さんの事例（後編）

ファイナンシャル・プランナー 黒田 尚子

前回に引き続き、約15年間で3回の別々のタイプの乳がんを経験した、山川なつみさん（56歳／仮名）の事例をご紹介します。

山川さんがはじめて乳がん告知を受けたのは、41歳のときでした。ステージ（病期）は初期だったものの、術前の抗がん剤治療、左乳房温存術を行った後、術後の放射線治療、ホルモン治療と、がん再発防止のための治療を受けることに。もちろん、その当時かかった費用は公的医療保険が適用になったとはいえ、決して少ない額ではありませんでした。

その後、そろそろ定期検診も“卒業”を迎えようかという10年目の51歳のとき、同じく左乳房に新たな乳がんが発見され、左乳房の全摘手術を行ったのです。

再び、抗がん剤治療を受け、ホルモン治療を継続していた山川さんが、3回目のがん告知を受けたのは、55歳のとき。右乳房にも乳がんが見つかりました。

こちらも初期での発見で、主治医から温存も可能と告げられましたが、山川さんは迷わず全摘手術を選択。全摘してそのままだった左乳房も併せて、左右の乳房の再建手術も行っています。

現在も治療や定期検査を継続中の山川さんに、今回は後編として、罹患前後の仕事や収入の変化、加入されていた保険等についてお伺いしました。

■ 罹患前と罹患後の仕事や収入の変化について

山川さんが勤務されていたのは、いわゆる街の写真屋さん。ちょうどお子さんが小学校に入学されたのを機に、再就職されたそうです。雇用形態はアルバイトとはいえ常勤で、店長として忙しい日々でした。

就職当初は、収入も会社員の夫の扶養の範囲内に収まるようにしていましたが、罹患当時頃から、年収は140～190万円と限度額を超えたため扶養から外れ、勤務先の社会保険（厚生年金、健康保険）に加入。勤務状況は、罹患時は水曜日から金曜日が9時から17時、土曜日は13時までの半日というシフトでした。

罹患後、すぐに勤務先のマネージャーには乳がん告知を受けたことを伝えました。もちろん職場の人たちは、驚くやら、心配するやら。入院のため、休職する間も「心配しなくても良いから」と温かい言葉かけられ、本当に職場や同僚には恵まれていたと山川さんは言います。

その当時（2003年1月～）から抗がん剤治療は外来で行われ、点滴で2～3時間くらいかかります。抗がん剤治療の日は半日お休みを取って通院し、副作用で脱毛しても、ずっとウィッグを着用して仕事は継続していました。

その後、放射線治療も受けましたが、照射のため月曜日から金曜日まで毎日通院する必要があります（25回照射）。朝イチで病院に行き、そのまま仕事場に直行しました。

罹患前から、離婚した前夫との関係は円満とはいえませんでした。生活費はもらっていましたが、罹患直後の医療費もしばらくは前夫が負担してくれましたが、術後の再発防止の治療を行う頃には、医療費はすべて自分が働いていたお金でまかなっていたとのこと。

そのため仕事も、入院している間以外はほとんど働いていました。なかば意地にもなっていたのかも知れません。今から思えば、うつ状態で、これからどうすればよいのかと、自治体の相談センターなどにも頻りに相談に通いました。

勤務状況については、1回目の乳房温存手術の入院の後、シフトも4時間から復帰し、徐々に勤務時間を増やし、罹患前と同じような勤務シフトまで戻しました。年収も160万円程度と、罹患前とほぼ変わっていません。

とくに辛かったのは、2回目の抗がん剤治療のときだそうです。副作用のため体調が悪く、働けるような状態ではなかったのですが、お客さまがいない時には、見えないうちで座ったり、寄り掛かったりして、何とか勤務していたそうです。

「今から思えば本当に大変でしたが、仕事をしている間はイヤなことを忘れられました。きっと、働いていなかったら、2回目の抗がん剤治療のときは、寝たきりで起き上がれなかったでしょう。本当に自分で奮い立たせて働いていたような状況でした」と、山川さんは言います。

仕事は、現在の夫と再婚（2015年4月）を機に退職。それまでご両親から多少、経済的援助は受けて

おられましたが、なるべく迷惑を掛けたくないということで、仕事を頑張ってきたことが、山川さんの闘病中の抛り所のひとつになっていたようです。

【罹患前後の変化】

	仕事内容等	収入
罹患前	常勤のバイト	140~190万円
罹患後	変更なし(入院期間のみ休職) 業務内容は変更なし	160万円

■ タイミングよく加入できた「条件緩和型医療保険」

山川さんは、罹患前、民間保険(以下、保険)には、まったく加入していませんでした。

1回目のがん治療に予想以上にお金がかかったこと、夫や家族には経済的負担をかけられないことなどを考慮し、治療が終わり保険に加入できるような状態になった時点(2011年6月)で、外資系保険会社の条件緩和型医療保険(A保険)に加入されたそうです。

とにかく、がん経験者は保険に加入できないと聞いていたので、入れるものがあるなら加入しておこう、くらいの気持ちでした。

その後、2回目のがんが見つかり、手術した際には、ギリギリ加入後丸1年経過していなかったため、半額の保障しか受けられませんでした(入院費日額1万円と手術10万円のみ)。「それでも、いろいろと大変な時期でしたので、とても助かりました」とのこと。

さらに、山川さんは、「今の医療保険だけで足りないかもしれない」と感じ、2回目のがん治療の後、2014年に別の保険会社の条件緩和型医療保険(B保険)に加入されました。

その後、2015年に3回目のがんが発症。昨年(2016年)だけでも、ざっくり病院に払った金額が50万円で、A保険とB保険からの給付金が約71万円。これらの保険で、入院費用などをカバーし、モトは十分取れたそうです。

「罹患後、保険に加入できて本当によかったと思っていますし、がん罹患した人でも加入できる保険が増えたことは、がん患者として嬉しい限りです」

■ がん経験者が保険に加入する意味を考える～山川さんの取材を終えて～

山川さんのお話を伺って、特筆すべき点のひとつとして、3回もの乳がんを受けながら、その合間にタイミング良く保険に加入されていることが挙げられます。

実際、がん経験者の方の保険ニーズは非常に高く、「再発や転移に備えて保険に入っておいた方がよいでしょうか?」といったご相談をよく受けます。

がん経験者が加入できる保険の選択肢として、最もバリエーションが豊富なのは、山川さんが加入された条件緩和型医療保険でしょう。

最大のメリットは、持病がある方でも一定の条件をクリアすれば加入でき、持病等も含め病気に備えられる点です。

一方デメリットは、通常の医療保険に比べて保険料が1.3~1.7倍と割高であること。全額保障されるのは契約の1年後からであり、加入後1年間は保障額が半減してしまうこと。契約前の病気の悪化は対象になりますが、「医師から3か月以内に入院・手術をすすめられていた場合」に限っては免責となることなどです。

山川さんの場合も、最初に加入したA保険の保険料は月額約9,000円。続いて加入したB保険の保険料は月額約5,000円と、保障内容に比べてけっして割安とはいえません。

とはいえ、実際にはがんの再発時には経済的リスクをカバーできたといえますし、そのことが治療中の安心感につながっていることは、間違いのないでしょう。

基本的に、がん経験者でも加入できる保険をご紹介する際は、保険加入時に支払う保険料と保障のバランスをよく検討することが大切であること。無理に加入せずとも、医療「貯蓄」でコツコツと将来の万が一に備える方法もあることなどを、併せてご説明すべきです。

しかしながら、実際に罹患後に保険に加入し、それを十二分に活用できている山川さんの事例は、がん経験者の保険加入を検討する際の参考になると考えます。

「乳がん診療ガイドライン」によると、一般的に乳がんの再発は、手術後2、3年以内に起こることが多いといわれていますが、10年後や20年後に再発することもあります。また、山川さんのようにまったく別のタイプの乳がん罹患するケースもゼロではありません。再発等の時期は、病気の進行度や乳がんの性質によって大きく異なるのです。

いずれにせよ、再びがん罹患する可能性をどのように考え、保険に加入しておけばよいのかは、加入の可否も含め、仮にがん罹患した場合、経済的なリスクを保険以外でどれだけカバーできるかをよく見極めて、検討することが重要です。山川さんの事例は、このことを再認識させられたよい事例になりました。

2017.07.24

<黒田尚子さんの記事は原則、毎月第4月曜日に更新します。次回は8月28日の予定です>

黒田 尚子（くろだ・なおこ）

CFP®資格、1級ファイナンシャル・プランニング技能士
CNJ認定乳がん体験者コーディネーター
消費生活専門相談員資格

大学卒業後、日本総合研究所勤務を経て、FP資格を取得。1997年同社退社後、1998年FPとして独立。2000年拠点を関西から関東に移し、新聞、雑誌、サイト等の執筆、講演のほか、個人向けコンサルティングなどを幅広く行う。「夢をカタチに」がモットー。2009年末に乳がん告知を受け、

「がんとお金の本」（ビーケーシー）を上梓。自らの体験をもとに、がんに対する経済的備えの重要性を訴える活動を行う。「がんサポート」（エビデンス社）にて「FP黒田尚子のがんマネー処世術」を連載中。一般社団法人日本ライフマイスター協会の「がん保険アドバイザー」講座で講師を務める（「がん保険アドバイザー」 <http://cancer.life-meister.jp/adviser/>）

黒田尚子FPオフィス <http://www.naoko-kuroda.com>



黒田尚子さんの新刊が出ました！

『がん患者が教えてくれた本当のところ がんとお金の真実』

(セールス手帖社保険 F P S 研究所刊)

知っておくべき「がんとお金」の知識を一冊に凝縮！

<目次>

第1部 がんにかかるお金と経済的リスクへの備え Q&A

第1章 がんとお金 支出編

第2章 がんとお金 収入編

第3章 がんによる経済的リスクへの備え方

第2部 【実例】がんにかかったお金の真実

胃がんの事例・大腸がんの事例・肺がんの事例・前立腺がんの事例・乳がんの事例・肝臓がんの事例

詳しくは[こちら](#)をご覧ください。



記事を印刷する

トップページに戻る

がんに強いセールスパーソンになる一覽へ